

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
102-278	高等学校	芸術	美術 I	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	美 I 703	高校美術		

I. 編修の趣旨及び留意点

- 本教科書は教育基本法第一条に示す教育の目的及び第二条に示す教育の目標に則り、「高等学校学習指導要領第1章 総則」、及び「第2章 第7節 芸術」、「第2款 第4 美術 I」に示された趣旨並びに目標や内容を基にして編修に努めた。
- 本教科書の編修に当たっては、特に「高等学校としての美術の学びを実感し、美術を通して生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を養うことができる教科書」を目指し、以下の3事項を重視して新しい教科書を編修することを趣旨とした。

(1) 中学校美術との学びの連続性がある教科書

- ・中学校美術の学習を踏まえ、学びを「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し明確にした上で、絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現、鑑賞の各題材ページを作成した。加えて、形や色彩、イメージなどの〔共通事項〕に配慮して感じ取る視点や考える視点などを盛り込んだ。

(2) 高等学校美術としての学びが実感できる教科書

- ・高等学校美術としての学びが実感できるように次のような工夫をした。
 - ①各分野の導入となるようなオリエンテーションを設け、見方・考え方を働かせて新たな視点でものを見たりするなど、課題をもちながら教科書の各題材を学んでいけるようにした。
 - ②題材ページ全てに、学習のねらいに結びつく、高校生の心に響くキャッチフレーズを示した。作品解説のキャプションには、作品を鑑賞する際の学びの視点を端的に表す見出しを添えた。
 - ③対象や心の中を深く見つめる、作家の生き方と美術を考える、日本の美術作品や文化を理解するなど、高校生の発達にあった深みのある題材を配列した。

(3) 生活や社会と豊かに関わる力を育む教科書

- ・身近な生活の中にあるものや場面、風景などを見つめ直したり、生活の中にあるデザインなどについて考えたりできるように、題材の設定や図版の選定に配慮した。
- ・自分自身の生活と美術との関わりを意識させるページ、デザイナーのインタビューを掲載したページ、社会的課題に向き合う作家の取り組みを掲載したページなど、生活や社会と美術との関わりが意識できるように工夫した。

II. 編修の基本方針

○本教科書においては、教育基本法第二条に示される教育の目的を達成するために、七つの具体的な基本方針を定め、編修に努めた。

・二条第一号は①と②に、第二号は③に、第三号は④に、第四号は⑤に、第五号は⑥と⑦に対応している。

第二条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

○教科書編修に関する具体的な基本方針

①幅広い知識と教養を身に付ける

絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現、鑑賞について幅広く学びが深まるように、基礎基本を重視した取り組みやすい題材や、日本の古典的表現から今日的、応用的な内容まで、豊富な作例や事例を取り上げるよう配慮した。

②豊かな情操と道徳心を培う

芸術としての美術の学びを重視し、表現することの意義や作者の心情などを理解できるように題材や記述内容を工夫した。これにより、自己や他者の考えや作品を大切にする心、よさや美しさを大切な価値とし、それを求めようとする心などが育成されることをねらいとした。

③個人の価値を尊重し、創造性を培い、勤労を重んずる態度を養う

主題の生成や作者の意図と表現の工夫を重視し、生徒が感性や創造性を発揮しながら自己の価値意識をもって表現や鑑賞ができるように題材や記述内容を工夫した。また、表現と鑑賞の関連を明確にすることで、時間をかけて集中して制作に取り組む中で、自己の課題に気付き改善を図りながら努力することのよさや達成感が味わえるような授業を目指す教科書づくりに配慮した。

④正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力、社会形成に参画する態度を養う

絵画や映像制作などにおける共同制作、デザインのプロセスにおける意見の出し合い、鑑賞活動などにおいて、他者との学び合いや話し合いの場を通して、学びの中から正義と責任、男女の平等、自他の敬愛を重んずる心情を培えるようにした。また、社会におけるデザインの役割や、社会の問題を見つけて変えようとするデザインの事例について考えることで、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるような題材を盛り込んだ。

⑤生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する

自然のよさや美しさを見つめ直したり、自然との共生や環境との調和から美術を考えたりする題材を設定し、自然を大切にし、美しい環境を保全していく態度の形成に寄与する教科書づくりに配慮した。

⑥ 伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する

日本や西洋の美術の鑑賞題材の充実を図るとともに、日本美術については複数のページを割り当て、図版を大きく掲載するなど、知識等を学びながらよさが実感できるように充実させた。

⑦ 国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う

自己の表現とともに他者の表現も大切にしている心情や、自国の文化とともに他国の文化を尊重する態度などを育成することで、美術による人間理解や国際理解が深められ、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことのできる内容にした。

Ⅲ. 対照表

○本教科書は学習指導要領に示されている内容の構成に基づき、生徒の学習のしやすさを考慮してオリエンテーション、絵画・彫刻など（表現・鑑賞）、デザイン（表現・鑑賞）、映像メディア表現（表現・鑑賞）、資料に分類している。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や留意点	該当箇所
オリエンテーション	① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。 ② 目には見えない一人一人の中にある思いやアイデアなどを自由に形にするという美術の役割について考えることは、個人の価値を尊重し、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うことに通じる。生徒にその機会を与えるべく編修に努めた（第二号）。 ③ 「アートは意見交換して議論する、中立な場を提供することで、結果として世界を変える」という作家の言葉と、社会の問題に一石を投じる作品を取り上げ、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力、社会形成に参画する態度を養えるよう編修に努めた（第三号）。	①p. 2～9, 102～103 ②p. 2～9 ③p. 102～103
絵画・彫刻など	① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。 ② 一人一人のよさや個性が尊重され、その能力を十分発揮する中で、相互に創造性を高め合うことができるような表現と鑑賞の活動を充実させた（第二号）。 ③ 自他を見つめ、それぞれの個性を尊重し生命を尊ぶ態度や、身近な環境や自然を見つめて美しさを発見し、環境の保全に寄与する態度を育む機会となる内容を設けた（第四号）。 ④ 日本の美術や、西洋の各時代に新たな表現を模索した作家たちとその作品を取り上げ、それぞれのよさや人々の思いなどを理解することで、我が国と他国の文化を尊重する態度を養うことをねらいとした（第五号）。	①p. 12～43, 46～47, 50～57 ②p. 12～43, 46～47, 50～57 ③p. 12～43, 46～47, 50～57 ④p. 12～15, 24～35, 36～37, 50～53
デザイン	① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。 ② 第一線で活躍するデザイナーの考え方に触れることで、デザインの目的やデザイナーの思考を理解し、デザインの仕事が日常生活と密接していることや、デザインの仕事に対する意識を高められるよう配慮した	①p. 58～74 ②p. 60～61, 74～75

	<p>(第二号)。</p> <p>③ 身近な生活から広く社会全般を見つめ、課題を発見し、造形を通して課題を解決する能力を培うことは、社会正義と自らの責任を重んじ、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うことになる。デザインの表現と鑑賞の活動を通して、その能力を培えるよう配慮した(第三号)。</p> <p>④ 身近な環境や自然を見つめて美しさを発見し、造形に生かす力を培うとともに、環境の保全に寄与する態度を育めるよう配慮した(第4号)。</p>	<p>③p. 58~74</p> <p>④p. 60~61, 74~75</p>
映像メディア表現	<p>① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した(第一号)。</p> <p>② 身近な生活から広く社会全般を見つめ、課題を発見し、造形を通して課題を解決する能力を培うことは、社会正義と自らの責任を重んじ、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うことになる。映像メディア表現の表現と鑑賞の活動を通して、その力を培えるよう配慮した(第三号)。</p>	<p>①p. 76~83</p> <p>②p. 76~83</p>
資料	<p>① 我が国及び他国の美術文化の歴史を知ることは、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うとともに、我が国の伝統と文化を尊重し、他国を尊重して国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことに通じる。そのようなねらいをもって、美術史に関する資料を豊富に設定した(第一号、第五号)。</p> <p>② 美術で用いる材料用具や色彩に関する知識について学び、表現技術の習得に励むことは、人類の長い歴史の中で培われてきた知識や教養を身に付け、美や人間存在の探求という真理を求める態度を養うことに通じる。また、表現の多様性を知ることによって個人の価値を尊重し、創造性を培うことに通じると考え、表現技法に関する資料を豊富に設定した(第一号、第二号)。</p> <p>③ 美術の授業で学んだ力を発揮できる場面や、将来の職業に生かされる内容を紹介し、職業及び生活との関連が図られるよう配慮した(第二号)。</p>	<p>①p. 91~101</p> <p>②p. 44~45, 48~49, 86~90</p> <p>③p. 84~85</p>

IV. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 主体的・対話的で深い学びの推進

・各題材のテーマや学びのねらいに沿って、生徒が主体的に考えるためのきっかけとなるような「問いかけ」を示した。生徒へ問いを投げかける文体や、学びの視点を端的に表す言葉を使うことで、生徒が見方・考え方を働かせて、主体的・対話的で深い学びが推進され、ねらいとする資質・能力が育成されるよう工夫した。

(2) 他教科との関連を重視

・日本史や世界史などの教科書に掲載されている美術作家や作品、生物や環境をテーマとした作家の表現活動、プログラミングを用いたアニメーションなど、他教科で取り上げられている内容を研究し、積極的に教科書の紙面に反映させることで、他教科との関連を図り、生徒の学びが一層深まるように配慮した。

(3) 言語能力の育成

・デザインの活動では、発想や構想を深めるために生徒同士の意見交換を取り入れた事例を取り上げるなど自分の考えを言語化し、伝えることの大切さとその技術について学べるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
102-278	高等学校	芸術	美術 I	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	美 I 703	高校美術		

I. 編修上特に意を用いた点や特色

○本教科書は「高等学校学習指導要領 第1章 総則」、及び「第2章 第7節 芸術」、「第2款 第4 美術 I」に示された趣旨並びに目標や内容を基にして、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することができるよう、以下の各項目において特に意を用いて編修した。

(1) 幅広い題材設定

- ・幅広い創造活動を体験し、豊かな美的体験ができるよう、取り組みやすい題材から応用的、今日的な内容まで、豊富な作例や事例を取り上げた。
 - ①過去の教科書を調査し、全国の授業実践に熱心に取り組む教諭へ使用頻度の高い題材ページについてヒアリングをし、授業実態に沿って取り組みやすい基礎基本を重視した題材ページを積極的に掲載した。
 - ②STEAM やプログラミングなど、他教科連携に結びつく内容を積極的に採用した。授業実践に合うように、取り上げる事例は全国の授業実践に熱心に取り組む教諭へのヒアリングを通して調査し選定した。
 - ③デザイン分野では、デザインの思考を用いた課題解決の考え方や実践を積極的に取り上げた。p70~71「デザインのプロセス」では、生徒同士が対話を通してデザインの思考を深めデザインをするプロセスを、p74~75「仕組みをデザインする」では、デザイナーによるデザインの思考を用いた課題解決の事例を掲載している。

(2) 主体的・対話的で深い学びへ導くキャッチフレーズと見出し

- ・生徒が見方・考え方を働かせて、主体的・対話的で深い学びが推進され、ねらいとする資質・能力が育成されるよう、題材ページ全てにキャッチフレーズと見出しを設けた。
 - ①見開きページの中で最も大きな文字で、高校生の心に響くキャッチフレーズを示している。各題材のテーマや学びのねらいに沿って、問いを投げかける文体やキーワードを用いて、生徒が主体的に考えるきっかけとなるような言葉を精選した。
 - ②作品解説のキャプションには見出しを付けた。作品を鑑賞する際のポイントとなる、学びの視点を端的に表す言葉になるよう工夫した。

(3) 分野毎の学びの視点を深めるオリエンテーション

- ・本教科書では、題材ページは、絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現の分野毎にまとめて構成している。その分野毎に、学びの導入につながるオリエンテーションを設定した。このオリエンテーションを用いた分野毎の学びの視点を意識した鑑賞活動を通して、分野毎に表現と鑑賞のどちらにも共通する見方・考え方を学び、表現と鑑賞を相互に連携させ、思考力・判断力・表現力等を育成できるよう工夫した。

- ① 絵画・彫刻分野には4つの「創造の扉」を設けた。4名の作家とその言葉や作品をそれぞれにまとめて掲載。作家の言葉や制作の姿勢、作品に込めた意図、時代背景など、多角的に作家や作品をとらえた鑑賞活動ができるように工夫した。
- ② デザイン分野のまとまりの冒頭2ページは、「デザイン>>コミュニケーション<<」と題し、石盤とスマートフォンの比較を通して、デザインの働きについて多角的に考えられる内容を設定した。
- ③ 映像メディア表現分野のまとまりの冒頭2ページには岩谷圭介の「ふうせん宇宙撮影」の取り組みと作品を事例に、機器の特性を生かした映像メディア表現の可能性について深く考えられる内容を掲載した。

(4) 美術文化の理解を深める美術史料

- ・ 題材を通じた学びとあわせて美術文化についての理解を深められるよう、西洋と日本の美術、近代デザイン、映像メディア表現に関する美術史料を設けた。それぞれをトピックに分けてまとめることで、分野毎の創造の歴史を概観しつつ、知りたいトピックにたどり着きやすい構成とした。
- ・ 美術史年表の右端に、生徒が現在の美術とこれからの表現の可能性を主体的に考えられるよう「現在とこれからの美術」を設けた。下段に示した社会の歴史の流れに予定されている未来の内容を加え、美術の流れの先を空欄にしておくことで、これまでの美術と社会の流れをふまえて、生徒自身がその流れの末端である現代に立ち、自分たちがその可能性をつくっていけることを実感できるよう工夫した。

(5) 要点をまとめた技法・色彩資料

- ・ 高等学校において美術を学習する上で身に付けておきたい材料や用具、色彩に関する知識について、要点を捉えてわかりやすくまとめた。
- ・ 色彩に関するページでは、色相環は中学校との関連に配慮して PCCS の 12 色相環とトーン分類図、実社会での使用されることが多いマンセルの 20 色相環を掲載した。色相環のページは片観音で本の外側に広げられるように設定し、どのページを学習していても、いつでも参照できるように工夫した。

(6) 学習意欲向上への工夫

- ・ 生徒が教科書を開くことに楽しみを覚え、高い意欲で学習に取り組めるよう、様々な工夫を施した。
 - ① 通常の A4 サイズより幅広の A4 変形判を生かして大型図版を多く掲載し、生徒が興味をもって作品を鑑賞できるよう工夫した。
 - ② 生徒の造形への関心を高めるために、色彩に関する知識を扱うページに、透明フィルムを重ねることで色彩の錯視を実感できる内容を設定した。透明フィルムの上部を切り取り、p89 上段の「スリットアニメーション」の絵柄に重ねて動かすとアニメーションが起こり、絵が動いて見える仕組みを実感することができる。

(7) 社会と美術の関わりについて取り上げる資料と巻末オリエンテーション

- ・ 美術は生活や社会と密接に関わっており、高校生がこれからの将来と美術との関わりを主体的に考え、美術を学ぶ意義について実感をもって把握できるような資料や巻末オリエンテーションを設定した。
 - ① p85「美術に関わる人々」では、美術を取り巻く世界には様々な職業や役割があることを紹介し、そうした人々を参考に、生徒がこれからの自分自身の美術との関わり方について考えられるような内容とした。
 - ② p85「科学や経済と連動し、生まれた肖像画」では、アートが社会情勢と切り離せない関係にあることを AI が描いた肖像画を例に示した。
 - ③ 巻末オリエンテーションには、JRによるプロジェクトと作家の言葉を掲載し、美術ならではの社会的

役割について考えられる内容とした。

II. 対照表

学習指導要領の内容の構成			
領域	A 表現	事項	
		(1) 絵画・彫刻	<p>ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想 (ア) 自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成すること。 (イ) 表現形式の特性を生かし、形態や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。</p> <p>イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 (イ) 表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すこと。</p>
		(2) デザイン	<p>ア 目的や機能などを考えた発想や構想 (ア) 目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成すること。 (イ) デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。</p> <p>イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 (イ) 表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すこと</p>
	(3) 映像メディア表現	<p>ア 映像メディアの特性を踏まえた発想や構想 (ア) 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成すること。 (イ) 色光や視点、動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練ること。</p> <p>イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能。 (ア) 意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かすこと。 (イ) 表現方法を創意工夫し、表現の意図を効果的に表すこと。</p>	
	B 鑑賞	(1) 鑑賞	<p>ア 美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞 (ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (イ) 目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (ウ) 映像メディア表現の特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。</p> <p>イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める鑑賞 (ア) 環境の中に見られる創造的なよさや美しさを感じ取り、自然と美術の関わり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、見方や感じ方を深めること。 (イ) 日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などから美意識や創造性などを感じ取り、日本の美術の歴史や表現の特質、それぞれの国の美術文化について考え、見方や感じ方を深めること。</p>
[共通事項]		(1)	<p>ア 造形の要素の働きを理解すること。 イ 造形の特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。</p>

図書の構成・内容		学習指導要領の内容			内容の取扱い	該当箇所
		内容				
		A 表現	B 鑑賞	[共通事項]		
オリエンテーション	目に見えないものを表現する。		(1) ア(ア) イ(ア)	(1) アイ	(4) (8) (9)	p. 4・5

	紙の上で考える。		(1)ア(ア)(イ) (ウ)イ(ア)	(1)アイ	(1)(4)(8)(9)	p. 6・7
	思考に形を与える。		(1)ア(ア) イ(ア)	(1)アイ	(1)(4)(8)(9)	p. 8・9
絵画・彫刻	創造の扉 パブロ・ピカソ		(1)ア(ア) イ(イ)	(1)アイ	(3)(4)(8)(9)	p. 12~15
	内面を見つめて	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	(1)ア(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)(4)(5) (6)(8)(9)(10)	p. 16・17
	身近な風景を描く	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	(1)ア(ア) イ(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)(4)(5) (6)(8)(9)(10)	p. 18・19
	配置と構図で語る	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	(1)ア(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)(4)(5) (6)(8)(9)(10)	p. 20~21
	感覚と表現	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	(1)ア(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)(4)(5) (6)(8)(9)(1)	p. 22~23
	創造の扉 葛飾北斎		(1)ア(ア) イ(ア)(イ)	(1)アイ	(3)(4)(7)(8)(9)	p. 24・25
	継承と創造		(1)ア(ア) イ(ア)(イ)	(1)アイ	(3)(4)(7)(8)(9)	p. 26・27
	江戸の日常		(1)ア(ア) イ(ア)(イ)	(1)アイ	(3)(4)(7)(8)(9)	p. 28・29
	怪異の生き物たち		(1)ア(ア) イ(ア)(イ)	(1)アイ	(3)(4)(7)(8)(9)	p. 30・31
	過去、現在、未来を見通す アート		(1)ア(ア) イ(イ)	(1)アイ	(3)(4)(7)(8)(9)	p. 32~35
	創造の扉 マルセル・デュシャン		(1)ア(ア) イ(イ)	(1)アイ	(3)(4)(8)(9)	p. 36・37
	組み合わせでつくる	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	(1)ア(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)(4)(5) (6)(8)(9)(10)	p. 38・39
	描きとめられた記憶	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	(1)ア(ア) イ(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)(4)(5) (6)(8)(9)(10)	p. 40・41
	版を用いて表現を深める	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	(1)ア(ア) イ(イ)	(1)アイ	(1)(2)(3)(4)(5) (6)(8)(9)(10)	p. 42・43
(資料)	線や面で捉えて描こう				(4)(5)(6)(8)(9) (10)	p. 44
(資料)	絵の具を知ろう				(4)(9)(10)	p. 45
	運慶とミケランジェロ		(1)ア(ア) イ(イ)	(1)アイ	(3)(4)(7)(8)(9)	p. 46・47
(資料)	彫刻をつくる—素材と技法—				(4)(5)(6)(8)(9) (10)	p. 48・49
	創造の扉 アンディ・ウォーホル		(1)ア(ア) イ(イ)	(1)アイ	(3)(4)(8)(9)	p. 50~53
	立体表現の広がり		(1)ア(ア) イ(イ)	(1)アイ	(3)(4)(8)(9)	p. 54・55

	サイエンス×アート		(1)ア(ア) イ(ア)(イ)	(1)アイ	(3)(4)(8)(9)	p. 56・57
デザイン	デザイン »コミュニケーション«		(1)ア(イ) イ(ア)(イ)	(1)アイ	(3)(4)(8)(9)	p. 58・59
	気づきに気づく		(1)ア(イ) イ(ア)	(1)アイ	(1)(4)(8)(9)	p. 60・61
	ポスターで考える	(2)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	(1)ア(イ) イ(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)(4)(5) (6)(8)(9)(10)	p. 62・63
	タイポグラフィー	(2)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	(1)ア(イ) イ(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)(4)(5) (6)(8)(9)	p. 64・65
	マークのデザイン		(1)ア(イ) イ(ア)	(1)アイ	(3)(4)(8)(9)	p. 66・67
	(資料) 誰のためのデザイン? 何のためのデザイン?				(1)(4)(8)(9)	p. 68・69
	(資料) デザインのプロセス				(1)(4)(5)(8)(9)	p. 70・71
	優しさのデザイン		(1)ア(イ) イ(ア)	(1)アイ	(3)(4)(5)(8)(9)	p. 72・73
	仕組みをデザインする		(1)ア(イ) イ(ア)	(1)アイ	(3)(4)(5)(8)(9)	p. 74・75
	映像メディア表現	テクノロジーで表現は どのように変えるのか?		(1)ア(ウ) イ(ア)	(1)アイ	(3)(4)(8)(9)
写真と時間		(3)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	(1)ア(ウ) イ(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)(4)(5) (6)(8)(9)	p. 78・79
アニメーションの仕組み		(3)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	(1)ア(ウ) イ(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)(4)(5) (6)(8)(9)(10)	p. 80・81
伝達の映像			(1)ア(ウ) イ(ア)	(1)アイ	(3)(4)(5)(8)(9)	p. 82・83
資料	ポートフォリオで伝えよう				(4)(6)(8)(9)	p. 84
	著作権や肖像権を意識しよう				(9)	p. 84
	美術に関わる人々				(4)(8)(9)	p. 85
	科学や経済と連動し、生まれた肖像画				(4)(8)(9)	p. 85
	色彩の仕組み				(4)(8)(9)	p. 86~90
	年表				(4)(7)(8)(9)	p. 91~94
	美術史 なぜ人はつくり続けるのか?				(4)(7)(8)(9)	p. 95
	西洋の美術史				(4)(8)(9)	p. 96・97
	日本の美術史				(4)(7)(8)(9)	p. 98・99
	近代デザイン史				(4)(7)(8)(9)	8p. 100
映像メディア史				(4)(7)(8)(9)	p. 101	
オリエンテーション	アートは世界をどう変えるのか?		(1)ア(ウ) イ(ア)	(1)アイ	(3)(4)(8)(9)	p. 102・103